

大槌高校三陸復興みらい創造プロジェクト（大槌高校魅力化構想）

事業背景

①高校が存置する大槌町は、東日本大震災津波によって壊滅的な被害を受け、**復興を担うリーダーの育成が急務(震災復興)**

②県内最大の人口減少率であり、地域貢献意欲が高い、地域を支える人材の育成が急務である**(地域を支えるリーダーの育成)**

魅力化コンセプト

大海を航る、大槌(ハンマー)を持とう

目指す人物像

自立

意志がある
課題をジブンゴトにし、主体的に探究・行動が出来る人

協働

仲間とともにある
他の価値観や文化等の多様性を受容し違いを越えて共創できる人

創造

逆境から創り出す
予測できない未来や想定外など逆境においても新しい価値を創り出す人

(町設置)
大槌高校魅力化構想会議

魅力化推進員派遣
(NPO法人カタリバと連携)
カリキュラム開発専門家1名
地域協働学習支援員2名

コンソーシアム（管理機関：岩手県教育委員会）



[校内体制]教員全員が所属するワーキンググループを設置。コンソーシアムと連動して魅力化を推進

令和元年度

①コンソーシアムの設置

- ・コンソーシアムが主導となりビジョンを策定
- ・コンソーシアムの各機関との具体的な連携

②学校設定科目「三陸みらい探究」の設定

- ・行政と連携した「SIMおつち2030」や「三陸復興ラーニングジャーニー」等の三陸みらい探究の初学年カリキュラムの設計

令和2年度

①「三陸みらい探究」2年生実施

- ・2年目となった三陸みらい探究では課題解決型PBL「マイプロジェクト」をコンソーシアム構成団体と協働し実施

②「三陸みらい探究」評価設計・運用

- ・学校設定科目の評価ルーブリックの設計、運用を全職員が連携して実施。

③学校設定教科「地域みらい学」設計(計17単位)

- ・総合的な探究の時間「三陸みらい探究」に加えて5科目それぞれで学校設定の探究科目を開設。
※地域みらい学を学校設定教科として立ち上げ

総合的な探究の時間「三陸みらい探究」(5単位)

国語	公民	英語	数学	理科
ひょっこり表現島 (2単位)	まちづくり探究 (2単位)	Eパスポート (3単位)	くらしmath (2単位)	おおつちラボ (3単位)

次年度に向けて

①学校設定教科の実施

探究教科「地域みらい学」の円滑な実施。教科と探究の連携、教科横断性の設計等校内で研修会などを行いながら実施

②学校設定科目「三陸みらい探究」の完成

- ・ルーブリック評価の持続可能な運用
令和2年度行ったルーブリック評価は一定の成果があがったものの継続的運用に課題が残る。教員が変わっても継続する仕組みづくりを行う

・継続可能な体制づくり

事業終了後も継続できるコンソーシアムの体制の検討（CS化の検討）や校内の研修や体制の検討